

「平成28年度電波の利用状況調査に係る調査結果及び評価結果」のポイント(北海道局管内)

1 調査対象周波数(714MHz超3.4GHz以下の周波数)全体の調査結果及び評価結果

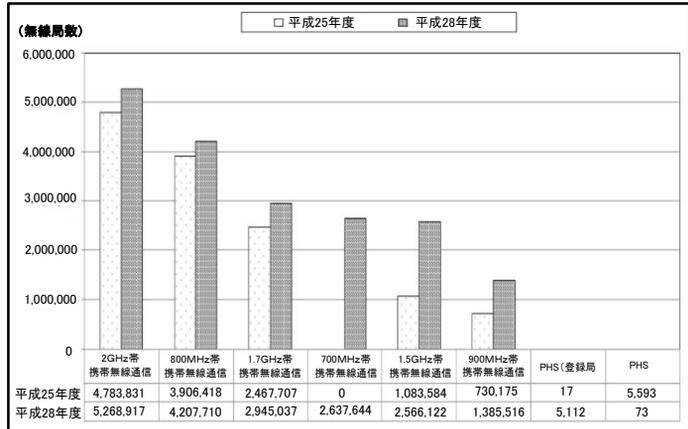
◆ 全体的な評価としては、適切に利用されていると判断できる。全体としての主な特徴点は以下のとおりである。

(1) 全国(各地方総合通信局管内)における無線局の推移

- 無線局数の割合
最大は関東局管内で全体の半数を超える50.7%、最小は沖縄県の0.7%、北海道は3.0%で全国7番目である。
- 無線局の増加率
前回の平成25年度調査と比較すると、関東の106%増加を除き、概ね45%程度の増加(北海道は13,007,774局から19,042,200局(46.4%増加))。

(2) 北海道局管内における携帯・PHS無線局数の推移(右図参照)

- 携帯無線通信(700/800/900MHz、1.5/1.7/2GHz帯)を行う無線局数
・前回の平成25年度調査と比較すると、大幅に増加している(12,971,715局から19,010,946局(46.6%増))。
・調査対象周波数全体に占める割合が非常に多い(99.8%)。
・以上のことから、携帯電話の動向が調査結果に大きく影響していると判断できる。



2 各周波数帯区分毎の主な調査結果及び評価結果

① 714MHz超960MHz以下

- ・前回の平成25年度調査と比較すると、平成27年5月から本格的な利用が開始された700MHz帯携帯無線通信の無線局数が大幅に増加している(0局から約264万局増加)。
- ・本周波数帯は、携帯無線通信を中心に多数の無線局により緻密に利用されていること、700/900MHz帯の周波数再編を実施し、携帯無線通信の新たな周波数確保に取り組んでいることなどから判断すると、適切に利用されている。

② 960MHz超1.215GHz以下

- ・航空無線航行業務の無線局(ATCRBS、DME/TACAN、ACAS)で構成されているため、前回の平成25年度調査と比較して大きく増加したものは無い。
- ・航空無線航行に利用される電波利用システムは、国際的に使用周波数等が決められていることから、他の周波数帯へ移行又は他の電気通信手段へ代替することは困難であり、無線局数についても今後大きな状況の変化は見られないと考えられる。

③ 1.215GHz超1.4GHz以下

- ・前回の平成25年度調査と比較すると、1.2GHz帯アマチュア無線は減少(9,478局から8,597局(9.3%減))。前回においても、前々回の平成22年度調査と比較しても減少(11,360局から9,478局(16.6%減少))傾向が継続。一方、その他の中で画像伝送用携帯局は、局数は少ないが6局から25局へと約4倍に増加。
- ・本周波数帯は、航空無線航行システム、公共業務システム、アマチュア無線等の幅広い分野のシステムが共用していること、800MHz帯映像FPU及び800MHz帯特定ラジオマイクの陸上移動局(A型)の周波数移行の進展に伴って1.2GHz帯映像FPU及び1.2GHz帯特定ラジオマイクの陸上移動局(A型)の無線局数が増加すること及び国際的な周波数割当てとの整合性等から判断すると、適切に利用されている。

④ 1.4GHz超1.71GHz以下

- ・前回の平成25年度調査と比較すると、1.5GHz帯携帯無線通信が大幅に増加しており(約108万局から約257万局(137%増))、これが全体増加に繋がっている。
- ・携帯無線通信については、今後も引き続き高いニーズが維持されることが想定され、1.6/2.4GHz帯を用いた移動衛星通信システムの制度整備が進められている。引き続き新たな無線システムの導入や既存無線システムの高度化が進むことが期待される。

⑤ 1.71GHz超2.4GHz以下

- ・前回の平成25年度調査と比較すると、主に2GHz帯及び1.7GHz帯の携帯無線通信が増加している(2GHz帯:約478万局から約527万局(10.3%)、1.7GHz帯:247万局から295万局(19.4%増))。
- ・本周波数帯は、1.7GHz帯及び2GHz帯携帯無線通信を中心に多数の無線局により適切に利用されている。

⑥ 2.4GHz超2.7GHz以下

- ・前回の平成25年度調査と比較すると、広帯域移動無線アクセスシステムが増加している(1,995局から4,010局(101%増加))。
- ・本周波数帯は、広帯域移動無線アクセスシステム及び2.4GHz帯小電力データ通信システムを中心として多数の無線局及び免許を要しない無線局の無線設備により適切に利用されている。

⑦ 2.7GHz超3.4GHz以下

- ・前回の平成25年度調査と比較すると、3GHz帯船舶レーダーが微減している(20局から17局)。
- ・本周波数帯は、各システムの利用状況や国際的な周波数割当てとの整合性等から判断すると、概ね適切に利用されている。